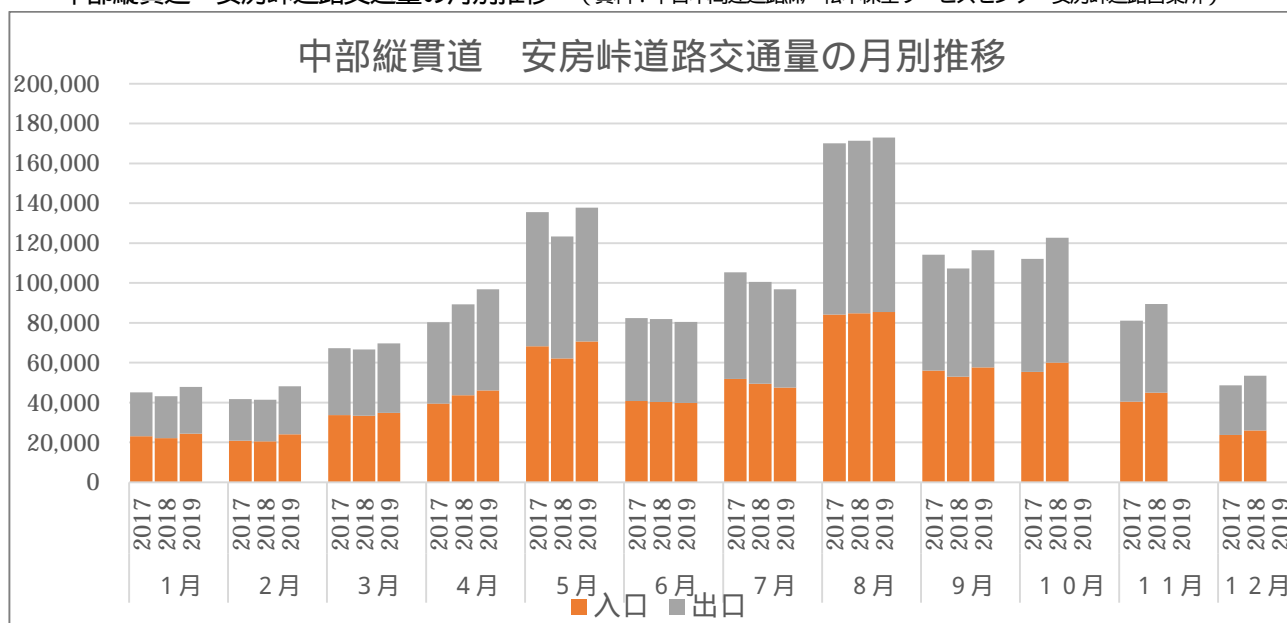


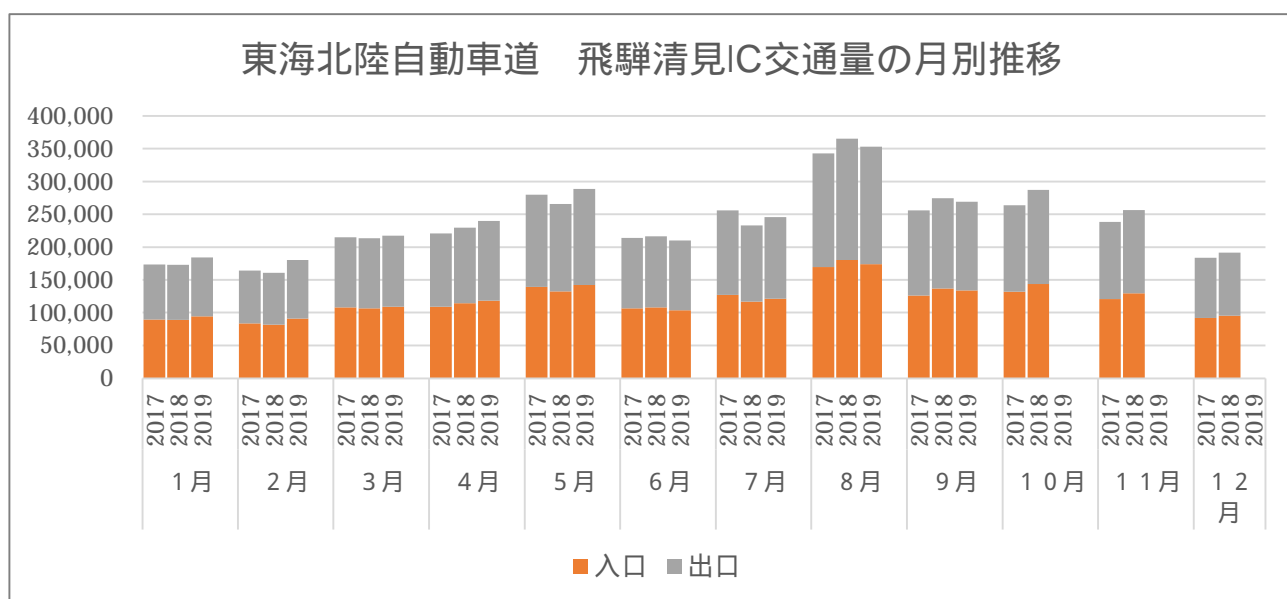
交通量からみる飛驒地域への流入の傾向

中部縦貫道 安房峠道路交通量の月別推移 (資料: 中日本高速道路㈱ 松本保全サービスセンター安房峠道路営業所)



昨年の最終四半期(10月以降)から本年5月まで、8か月連続で前年実績を上回る利用台数で推移していたが、6月になって若干ながら減少となり、7月も利用台数が減少した。9月はかなり持ち直したので、紅葉シーズンに向けて利用者増加が期待される。

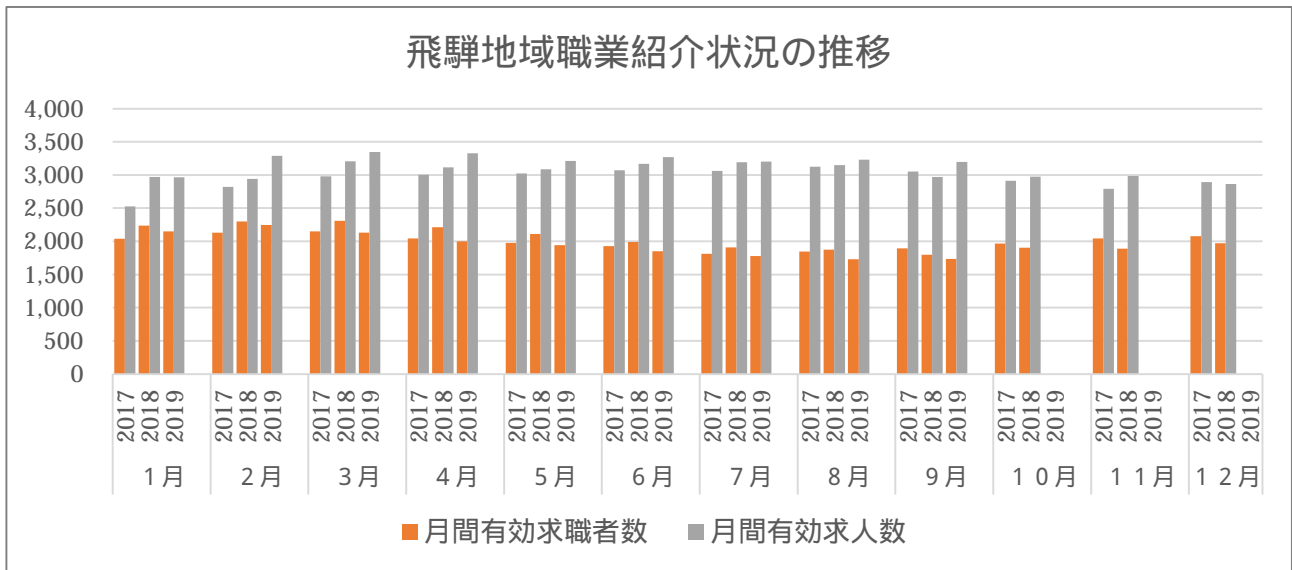
東海北陸自動車道 飛驒清見IC交通量の月別推移 (資料: 中日本高速道路㈱ 名古屋支社高山保全サービスセンター)



こちらも、“中部縦貫道 安房峠”と同じように、昨年から8か月続いていた前年を上回る利用実績が6月に減少、7月に一旦持ち直したものの台風や豪雨の影響で8月9月は再び利用減少となった。ただ、片側2車線化工事がほぼ完了したことに伴い、紅葉シーズンに向けた期待が膨らむ。

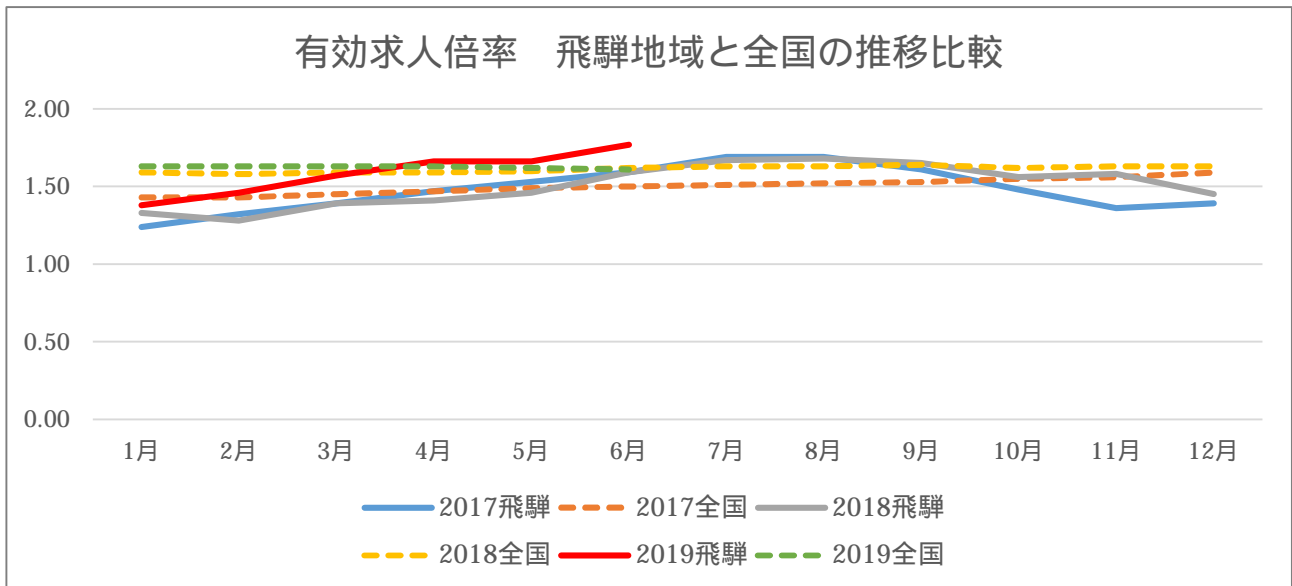
## 雇用状況からみる飛騨地域の傾向

飛騨地域職業紹介状況の推移 (資料: 高山公共職業安定所)



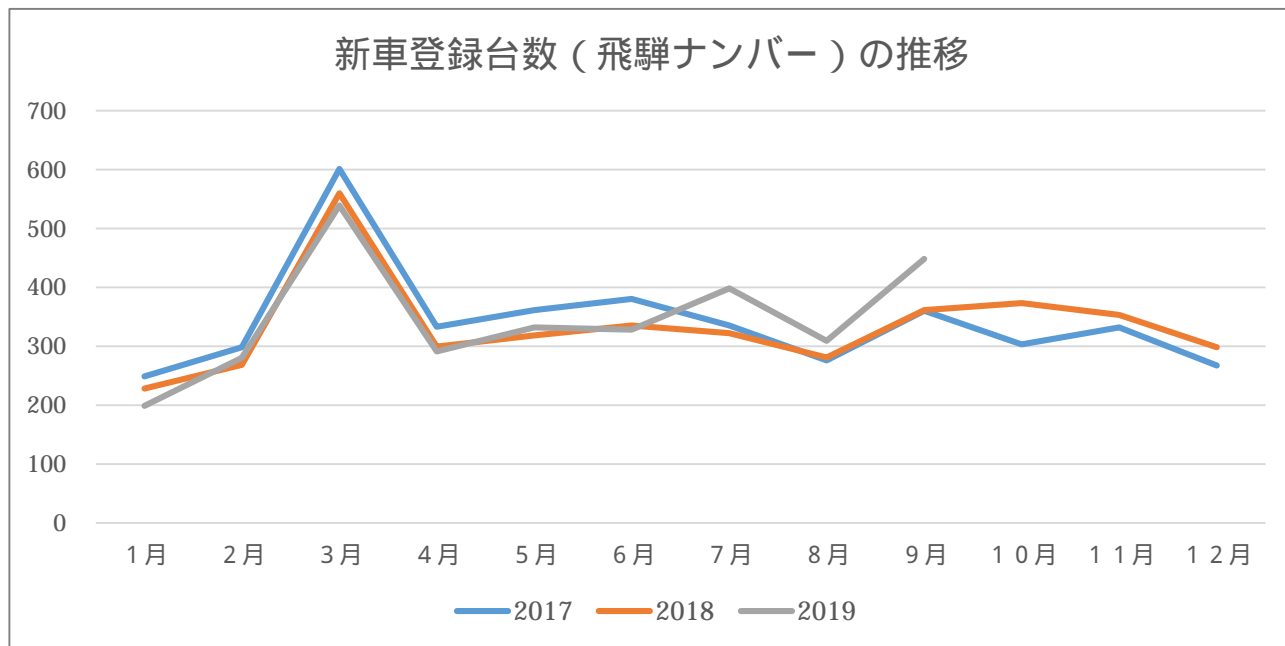
本年の第3四半期も、有効求人数が高い水準で推移しているのに対して、有効求職者数は近年にない低い水準となったため、全国平均以上の求人難となってきている。また、ホテル建設ラッシュの影響を受け、観光産業及びサービス業の人手不足が深刻な問題となっている。

飛騨地域有効求人倍率の推移 (資料: 高山公共職業安定所)



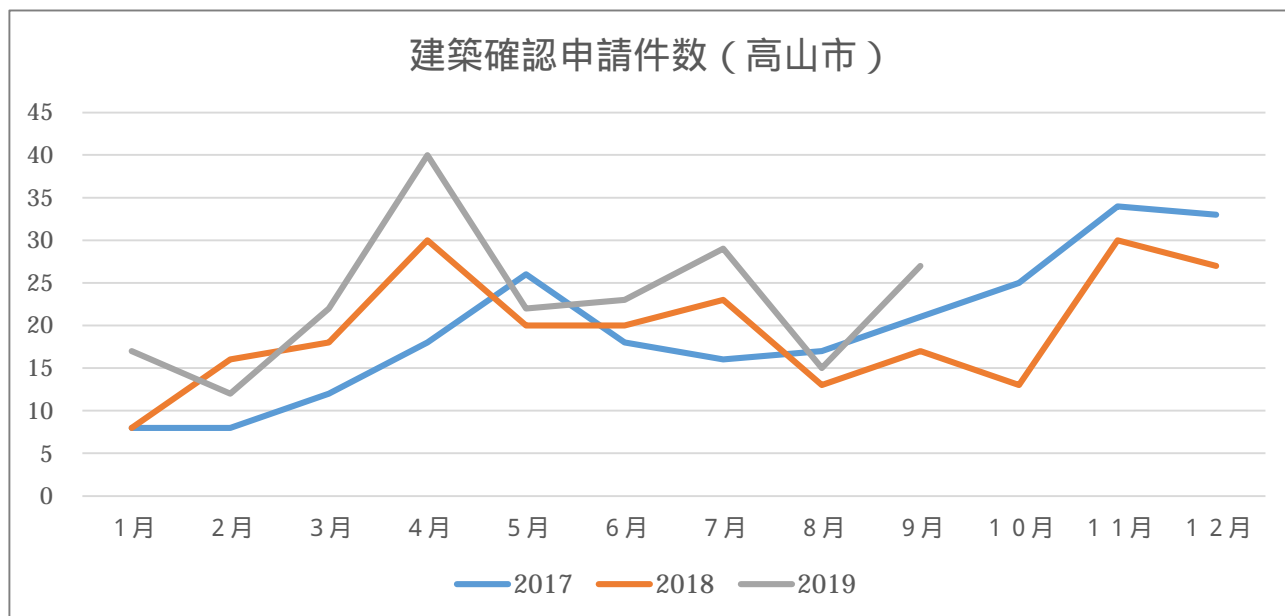
飛騨地域の有効求人倍率は、昨年夏場の1.69をピークに徐々に下落していたが、3月から連続して上昇となり、ついに1.84と全国平均1.57を大きく超える水準となった。「岐阜県」は昨年6月に約26年ぶりの2倍超え(2.09)まで上昇したが、現在は1.95倍とやや落ち着きを取り戻している。当地区はこれまでにない水準に達して、いよいよ全業種の求職状況が深刻となってきた。

新車登録台数（飛騨ナンバー）の傾向（資料：飛騨自動車検査登録事務所）



人口減少の影響を受け、本年は6月まで2%減少してきたが、やはり消費税増税に伴う駆け込み需要があり、9月は一気に増加した。現在昨年比5%増加しているが、駆け込み需要の反動及び諸事情の関係で今後は減少が見込まれる。営業活動の大幅な見直しと整備関係等へのシフトが求められている。

建築時確認申請件数（高山市）（資料：高山市基盤整備部）



確認申請件数においてははっきりとした規則性が見られないものの、第2四半期までの高い伸びに加え、消費税増税の駆け込み需要が加わり、第3四半期までで前年同時期比25.5%増加している。10月以降、駆け込み需要の反動が見込まれるが、本年は久しぶりに高い水準となりそうである。